

## 踏み跡 <My Mountains>

御坂	御坂峠から三ツ峠山	No.138
----	-----------	--------

昭和44年12月13日

会社のWV部のイベントとして「冬の美しい富士を見て山中湖の社寮に泊まる旅」を企画した。

年末のせいと、冬の遊びがスキーとスケートに傾いている流行のせいか参加者が予想以上に集まらず、男性4名・女性2名という静かな旅になった。

折からの快晴に恵まれて、新雪の富士は終日我々の目を楽しませてくれた。

御坂峠旧道からの富士は、足元に河口湖の水面を従えて吉田大沢の大きな窪みと白山岳の突起が特徴。

そして我々が歩いている道が高度を上げるにつれてその広大な裾野が少しずつ姿を現してくる。

三ツ峠山の頂上に着く頃になると太陽が西に寄るため、富士の左半分は黒い影を帯びてくる。

長い東側の裾野の後方から愛鷹連峰らしきものも顔を覗かせてくれる。

山頂の大小の突起が明瞭にうかがえるのも三ツ峠からの富士ならではのことで。

東京から見ると平坦でしかないお鉢の稜線も、ここから見れば小さな凹凸まで手に取れるように見える。

下山路は天上山コースを選んだ。富士は徐々に見上げる高さになって行き、我々はあたかも富士の懐に吸い込まれていくかのような感じで下って行く。

その富士も他の景色と同じように、迫り来る闇の深さの中に姿を沈めて行く。河口湖畔に着く頃にはもう富士山は、そこにあるらしいどす黒い黒壁を建てているだけになり、あたりを走る車のライトだけがえらく明るく目立っていた。

冬の富士をゆっくり眺め、その眺めの刻一刻の微妙な変化に目を輝かせた一日は終わり、我々6名の旅団は山中湖畔の寮に向かった。

以上



<御坂峠への道からの富士>



<三ツ峠山山頂：阿部青柳大戸・私>



<三ツ峠山山頂にてスケッチ>